

「ウクライナ、そして地球の未来」シンポジウム

声明文

長期化するウクライナ紛争の惨禍の中、教皇フランシスコはこの2月以降、ロシアの侵略行為、残虐な暴力に対して、「無益な殺戮」「極悪な蛮行」「不条理」「強い怒り」などといった強い表現を使って、連日抗議を行っておられます。加えて、一貫して「暴力によらない、一日も早い平和の実現」に向けて皆が努力すべきであると提言され、一人ひとりが実際に出来得る「行動」に出る必要性を述べておられます。御自身も「平和のためなら何でもする」とおっしゃって活動していらっしゃいます。

我々カトリック大学・短期大学は、キリスト教の理念に則り、「共生」「調和」「平和」「いのちへの奉仕」を共有しています。よって、この21世紀の世の中に大規模な暴力による悲劇が生じていることを黙視することはできません。そうした意図から、この度、日本カトリック大学・短期大学連盟主催で「ウクライナ、そして地球の未来——命の尊厳が守られる「共生」の実現に向けて——」と題する国際シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムでは、現地ウクライナから参加の方を含め、4組5人のパネリストの皆様にご登壇いただきました。カトリック新潟教区の成井司教様からは、聖書の言葉も引きつつ、自らの所属する集団の仲間かどうかに関わらず、文化的・歴史的な垣根を越えて、助けを必要としている人々に寄り添うことの重要性を御指摘いただきました。また、カトリック教会の務めの一つである「愛の奉仕」を行う公的援助団体であるカリタスジャパンの活動内容についても御説明くださいました。ウクライナカトリック大学副学長のドミトロ・シェレンゴフスキー先生からは、現地ウクライナの命・生活が脅かされている惨状を動画と共にお示しになった上で、ウクライナのカトリック教育の果たすべき役割や、国内外でのネットワークの構築と連帯の必要性、その重要性につき、御報告がありました。世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会役員の方からは、同会議の活動実績、特に実際にポーランドでウクライナ難民人道支援に当たられた御経験に基づき、難民の方達へのメンタルサポートの重要性などを具体的に御提示いただきました。且つ、本年9月に行われた諸宗教平和円卓会議の内容を踏まえ、諸宗教の指導者達が対等な立場で集うことの意義もお示しくくださいました。上智大学長の曄道は、日本カトリック大学・短期大学連盟を代表して本シンポジウムに参加し、「平和」「国境」の概念につき改めて検証しつつ、「人間の尊厳・命を尊重する」という普遍的価値を皆が基底に共有する社会を実現するため、多様性を互いに認め合う教養力を培うため、「共生」「調和」「協調」といった理念を共有するカトリック学校が担う役割の大きさを再確認いたしました。

最後の合同討議・質疑応答を通して、「平和」の一日も早い実現を希求しつつも、その実現に未だ大きな困難の多く伴うであろうこと、その一方で苦しむ人々に対する支援は一刻も早く進めて行く必要のあることが再認識されました。短期的に行うべき事柄と中・長期的に粘り強く進めて行く事柄の両方を並立して行かねばなりません。

以上の本シンポジウムの成果を受け、我々日本カトリック大学・短期大学連盟は、改めて、「平和」の実現に向けて、またウクライナの支援に向けて、世界的なネットワークの構築や、個々人の心への働きかけ等、更に努力して行くことを宣言します。冒頭に述べた如く、教皇フランシスコは、「平和」「共生」に向けて日々祈るのみならず、実際に「行動」すべきであることを説いていらっしゃいます。カトリックの理念の上に立つ高等教育機関である連盟所属各大学・短期大学は、我々の社会的役割を、混沌の時代を迎えている今こそ、着実に果たして行くべきものと考えております。皆様におかれては、広く御理解・御協力をお願い申し上げます。

2022年12月17日

日本カトリック大学・短期大学連盟 加盟大学 学長一同

連盟会長 上智大学 学長 曄道佳明

会場校代表 清泉女子大学 学長 佐伯孝弘